



江戸のこども絵本

—江戸社会はどのような絵本をこどもに与えていたのか—

講師 日本女子大学文学部日本文学科教授 福田安典先生

こどもが読む絵本というものは、当たり前になっています。こどもに絵本を与える習慣は、江戸時代に始まりました。その一部には『桃太郎』や『花咲かじいさん』など、今でも読まれているものもあります。江戸の社会では、どんなことを願ってこどもに絵本を読み聞かせていたのでしょうか。

「おとぎ話」という言葉自体が近代になって定着したように、今、わたしたちが知っているこども絵本と江戸時代のものでは内容の違うものがあります。太宰治が言うように、あるものは残酷さが軽減され、あるものには教訓性が付与されたり削られたりしました。今回の講座では、江戸時代のこども絵本を取り上げ、現代のわれわれの知る世界とは似ているようで似ていない世界を覗いてみたいと思います。



『草双紙の世界：江戸の出版文化』木村八重子著
ぺりかん社（2009）より

第一回 1月16日『桃太郎』から考える、江戸のこども絵本

第二回 1月23日 現代人は知らない昔話 江戸の原本を読む

どちらも金曜日 14:00～16:00

各講座の概要は裏面をご覧ください。

【会場】大和市文化創造拠点シリウス 6階 生涯学習センター 601講習室

【定員】先着50名 【対象】どなたでも（大和市内在住・在勤の方優先）

【受講料】各回1,000円

【申込】12月13日（土）10時から受付開始

お電話または大和市生涯学習センター窓口へ。

☎ 046-261-0491

市外の方は、お席に空きがある場合、12月19日（金）10時から
お申込みいただけます。

右のQR、お電話または生涯学習センター窓口へ。



大和市生涯学習センター

〒242-0016 大和市大和南1-8-1／お申込・お問合せ 046-261-0491

小田急江ノ島線・相鉄本線 大和駅から徒歩3分

- ◆天候や交通機関の運行状況及びその他やむを得ない事情により開催中止となる場合があります。
- ◆駐車場の数に限りがありますので公共の交通機関でお越しください。



第一回 1月16日 『桃太郎』から考える、江戸のこども絵本

絵本の歴史をたどりながら、桃太郎を例に取ってわかりやすく江戸のこども絵本を考えてみたいと思います。江戸時代のこども絵本は桃から生まれる「果生型」より、桃を食べて若返る「回春型」が多いです。そして、桃太郎が鬼退治に行く際に父親は反対するも母親が応援し、父親を説得するというのも意外な感じです。さらには「きびだんご」製作も今のわたしたちの考えているものとは違います。

第二回 1月23日 現代人は知らない昔話 江戸の原本を読む

第一回と同様、われわれがよく知る昔話から『花咲かじいさん』『したきり雀』『さるかに合戦』を扱います。第二回は江戸時代の原本をテキストに用意します。知っているようで知らない「昔話」をしましょう。

講師：福田 安典

日本女子大学文学部 日本文学科教授

【講師プロフィール】

平賀源内を中心とした江戸時代の文学全般を専門とする。大阪生まれ。源内が四国出身というので12年間ほど愛媛大学に勤める。おもな著書は『儒医の文芸』（汲古書院）、『平賀源内の研究 大坂篇（源内と上方学界）』（ぺりかん社 2013年）、『医学書のなかの「文学」江戸の医学と文学が作り上げた世界』（笠間書院 2016年）、『江戸の実用書 ペット・園芸・くらしの本』（共著 ペリかん社 2023年）など。医譚賞、日本古典文学会賞、文科大臣賞、愛媛出版文化賞などを受賞。



『再版／桃太郎昔語』（東京都立中央図書館所蔵）



『さるかに合戦』（佐賀大学附属図書館所蔵）